

自己評価報告書(最終報告)

報告者

特別支援教育専攻
／高原 光恵

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

担当する授業には、実地を伴うもの、課題として実地研究を課せるもの、講義中心となるものなどさまざまである。これまで、特に講義中心の授業については、机上の知識や話題として聞き流すことがないよう、具体的なエピソード紹介あるいは講義のテーマに添った特別講演も取り入れた授業にした。実感を伴う情報の伝達は、授業終了後に振り返っても、とても心に残るようである。他の授業でも、実体験の印象がその後の行動につながるという同様の傾向がある。そのため、今年度も同様の手法を用いて、15回分の授業終了後にも各自がそれぞれに考えていくことができるよう、問題提起をしたい。

2. 点検・評価

担当する授業はすべて特別支援に関するものであった。実地経験の得られる授業においてはその手法を取り入れ、講義中心となる授業においては具体的な事例紹介や学校等で使用可能な支援ツール・福祉用具等を用いての紹介、疑似体験のデモンストレーション等を取り入れた。受講生が実際に学校現場で活用できるかは今後の成果を期待するところであるが、少なくとも授業評価の自由記述では、良かった点としてこうした具体的な素材を用いての授業進行に関するコメントや授業者の意向を踏まえたコメントが寄せられた。さらには、授業内においても、「子どもの前にいる自分」を想定しての疑問点や不安を受講生自らが自覚し、授業に臨む姿勢が見られ、一定の効果はあったと思われる。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ・教員間での情報の共有を図り、必要に応じて学生指導を行う。
- ・適宜、学生相談に応じ、必要に応じて関連の教職員と連携をとりつつ課題解決を図る。

2. 点検・評価

教員間での情報共有を図り、必要に応じて、学生指導を行った。また、適宜学生相談に応じ、必要に応じて関連の教職員と連携をとりつつ課題解決を図った。

相談方法としては、学生の希望や話の進めやすさに合わせ、対面、電話、メール等、を使用した。

また、緊急の用件に関しては時間帯を問わず駆けつけ、他の教職員とともに連携しながら対処した。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

・特別支援に関連した調査研究を行う。

・他の専門家と協力して教育環境の整備・充実(特別支援)についての研究を進める。

2. 点検・評価

特別支援における感情に関する調査を行い、論文にまとめた。

社会受容の視点から障害の認知度に関する調査データを他の専門家と協力して論文にまとめた。

その他、教育支援に寄与する可能性を探りつつ、教育、医療、福祉、デザイン等、さまざまな分野の専門家との情報交換や討議を行い、検討を進めている。

また、共著者としては保護者支援に関するテーマの論文をまとめた。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

学内の各種会議に出席(代理としても含む)し、職務を遂行する。

2. 点検・評価

学内の各種会議に出席(代理としても含む)し、職務を遂行した。

特に、教育実習関連の委員としては、大学内での授業や会議に重ならない限り各実習校への複数回の学校訪問や懇談の時間を優先的に確保し、対応した。

専攻内では、新規の作業が増える中、教員間で分担しながら円滑に運営が行えるよう、会議やメール連絡等を用いて随時情報共有を図りながら行った。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ・附属学校との連携として, 特に附属特別支援学校と教育研究において連携し, 課題解決に努める。
- ・社会との連携として, 鳴門教育大学教育支援アドバイザー講師に登録継続する。

2. 点検・評価

附属特別支援学校と連携しての授業計画立案や実施、反省会、次年度に向けての検討会、研究発表会での協働等、さまざまな活動に携わった。
また、教育支援アドバイザー講師に登録継続した。
その他、社会との連携としては徳島県との共同開催事業の実施、運営に関わる諸作業の準備、段取り等、行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

教員養成系大学としての本学の中心事項、実地教育(学校訪問、教育実習等)や教員採用試験対策(模擬面接の担当等)などに携わっている。所属する専攻では、毎年度、主要な業務を分担して行っているため、担当者変更の際に在学生に不利益が生じないよう、常に他の教員との情報共有を意識して行っている。その他、種々の書類作成の代行や会議への代理出席等、専攻宛に新規に依頼される業務が生じる中、裏方として支える作業を担う事は、本学への貢献のひとつと考える。
その他、本学宛のさまざまなボランティア募集案内を通じて、在学生と教育関係者、福祉関係者をつなぐ機会も設けている。